

【5 バックアップ遮水工（最終バリア）】

- 遮水工は、埋立底面部に設置する表面遮水工（二重遮水シート）を基本としますが、万一、二重遮水シートが何らかの原因で破損し、浸出水の一部が埋立区域から漏れ出した場合に備えて、これを下流域に流出させないように、最終バリアの機能として貯留堰堤末端部に鉛直遮水工を設置します。
- 鉛直遮水工は、岩盤の中にセメントミルクを注入して、幅 5m 以上の不透水層を構築するものです。
- また、万一、浸出水の一部が埋立区域から漏れ出した場合、浸出水が混じった地下水は、地下水集排水管に集まります。その際、常時地下水を観測する地下水モニタリング設備が異常を検知し、浸出水が混ざった地下水を、浸出水調整池へ流れるよう切り替えます。
- これにより、浸出水が下流河川等へ流れ出すことを防ぎます。

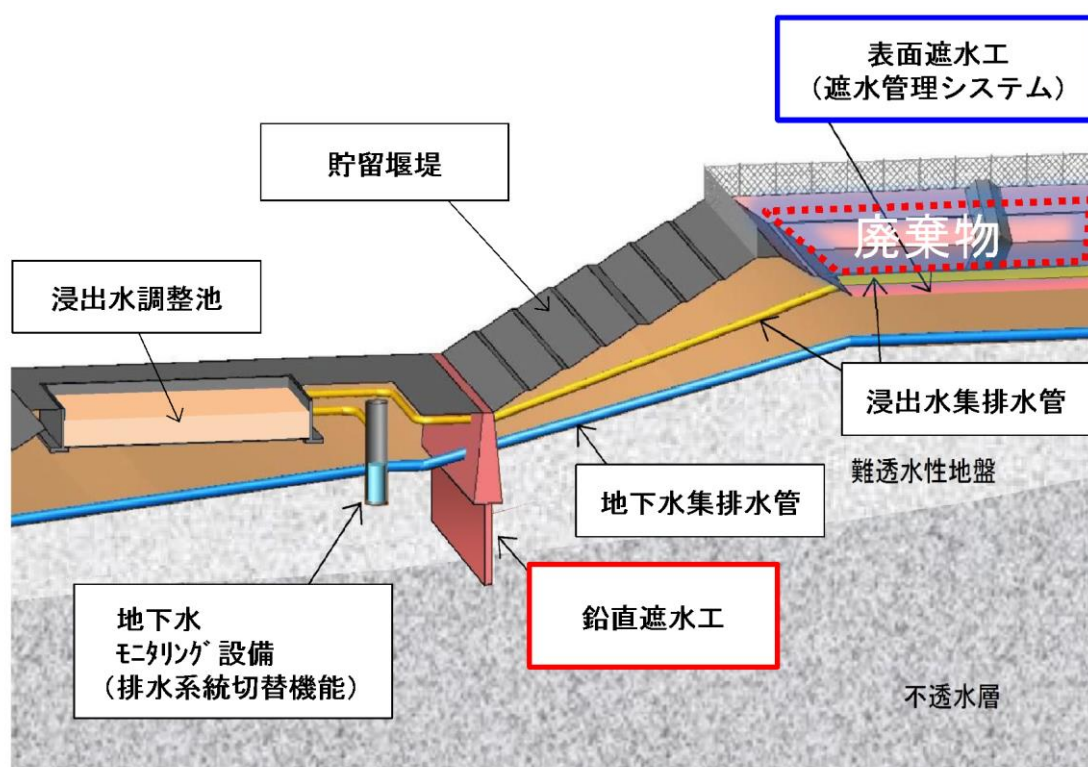


図 鉛直遮水工、地下水モニタリング設備の設置場所及びイメージ